

会議名 (審議会等名)	平成16年度第1回 川西市青少年センター運営委員会		
事務局 (担当課)	教育振興部 青少年センター 内線(4500)		
開催日時	平成16年6月28日(月) 10:00~11:50		
開催場所	川西市ふれあいプラザ4階 会議室		
出席者	委員	村木 修、角谷悠子、中司英彦、長船幸夫、早川英二、規矩大定 森田文英、森脇朝生、小島澄江、嶋崎 豊	
	事務局	小畑利宏、仲 義弘、元井悦夫	
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	開会 1. 運営委員の委嘱について 2. 会長あいさつ 3. 協議事項 (1) 平成16年度川西市青少年センター事業計画について (2) 平成16年度夏季特別補導強化月間実施要領について 4. 報告事項 最近における子どもを取り巻く危険情報の実態 閉会		
会議結果	協議事項は(案)どおり了承		

1. 運営委員の委嘱

センター運営委員の任期は2年間であり、以前の委員の任期は平成16年3月末をもって任期満了となったことを説明。

各委員の推薦団体に新たな委員の人選をお願いした結果、あらためて委員が推薦され、推薦された者も委員に就任することを承諾されたことを説明。

第1回運営委員会の冒頭に委嘱状を交付する旨伝え、青少年センター運営委員会の会長の村木修川西市教育長からセンター運営委員の委嘱状が交付された。なお任期は平成16年4月1日から平成18年3月31日までの2年間です。

2. 会長あいさつ

3. 協議事項1

<事務局説明> (1) 平成16年度川西市青少年センター事業計画について

質疑応答

(委員) 事業計画案は発生した出来事に対する対応案は出されているが、事案が発生しないような予防策の事業はどのようになっているのか？

(事務局) 平成16年度から小学校及び中学校において、安全防止対策に関する教室や講習会を開催する。一例としては次のようなものがある。

A 中学校では、前1・2年生を対象に夏休みの安全な過ごし方に関する講話

B 中学校では、薬物・シンナー・たばこの害についての講話

(委員) 平成16年度の主要な事業として、学校外において問題行動を起こす児童生徒の指導が掲げられているが、どのような事業なのか？

(事務局) 4月から学校と連絡をとりつつ保護者と面談をおこなったり、生徒指導担当教諭だけでなく一般の先生に対しても指導を行っている。さらに最近の生徒の問題行動は市域を越えて活動している現状もあるので、他市の生徒指導担当者とも連携するため情報交換などの会議を開催している。

(委員) センターが学校と連携していく中で、生徒指導担当者に対する指導はわかったが、その生徒指導担当者から各クラスの先生にどのような指導がなされているのかが見えない。

(委員) 学校が荒れてくると、問題行動をおこしている生徒は、クラスの先生や生徒指導担当教員に指導されるが、問題行動の被害者となった生徒はくやしい思いをするだけで先生からの指導がない。その結果、不登校になったりまた反対に弱い子をいじめる非行にはしったりしている。さらに問題行動を起こす生徒には、初めからあいつは悪いとレッテルを貼って、その子の気持ちなどを理解しようとしていない先生が多いのではないだろうか。

(事務局) 学校から要請があって生徒の状態などを見に行くことがあるが、生徒指導担当者に話すだけでなく、他の教師への指導も行っている。ただ、問題行動を起こす生徒も1人でいるときと集団でいるときの状態が異なる。往々にして、授業がわから

ない生徒が授業中何もしないでじっとしていることが苦痛となり問題行動を起こす。私たちが学校に行ってそんな生徒に会うと、彼らは実に親近感を持って私たちに接してくる。ただし私たちが彼らと会っているときは「点」でしかない。日々彼らと接しているクラスの先生とは「線」であり、悪いことをしたときはそれ相応の対応もしなくてはならないので、彼らにとってうるさい存在と写ってしまい、態度も違ってくる。

(委員) センターは少ない人数で精一杯の活動をされていると思う。子どもの個人的な特徴や非行を行いそうなこどもについての状況を説明されたが、具体的な話ができないのは、センターとして仕方がないと思う。

こんな中で、小学校では最近本当の意味で「安心」「安全」について本格的にとらえなければならない時期に来ているのではないかと思う。ただし、教育委員会から先生に配られた防犯ブザー等は、誤作動をおそれてなかなか持とうとしない状況が現実問題としてある。そんな中で、「安心」「安全」をどのように確保するかが問われている。

(委員) 以前からセンターの事業活動の中に、地域の協力を得ながら子どもを守り育てるという表現があるが、具体的にどのように地域の人々の協力を求めるかの方向づけがされていないのではないか。地域の人是不審者対応などについて協力しようとするのであるが、行政などに話をすると予算がないということで、どうも及び腰になっているように見え、行政の熱意が見えない。

(委員) 多田東地区や緑台では安全安心運動に積極的であるが、もう1歩進んでこの活動を推進するには金も必要であろう。しかし、全地域でこのような事業を同時進行させることはやはり困難と思えるので、重点地区を定めそこに資金も労力もつぎ込み、その成果を他の地区に知らしめるモデル事業として推進するのがよいのではないか。

(委員) 私が住んでいる地域では、学校から児童生徒の帰宅時間表が3月に地元配られた。教頭先生は今後も配るので子ども達の下校時に見守り運動を続けて欲しいとおっしゃっていたが、4月の異動で体制が変わるとそんな情報も流れてこなくなった。このような事業は組織的にやっていただき、先生がかかわっても続けられるようにして欲しい。

(委員) 最近は、自分の安全は自分で守るが基本となってきた。この考えに立ち、地域で一生懸命防犯活動などが行われている所には出来るだけの手だてをしようという考えが警察にはある。

(会長) 委員の意見を集約すると「住民の力を結集させるコーディネート役に青少年センターがなって欲しい」というところでしょう。この点に配慮して青少年センターが活動するよう心がけてください。

協議事項 2

<事務局説明> (2) 平成16年度夏季特別補導強化月間実施要領について
質疑応答

(委員) 夏季の補導強化月間中に県の薬物防止キャラバンカーを川西に招致し、子ども達に薬物の恐ろしさを知らせる活動をして欲しい。

(会長) センターの方で状況を確認し、対応策を講じるよう指導します。

(委員) パソコンの問題であるが、長崎の事件もそうだが、子ども達のパソコンに関する問題行動が多くなっていると思うが、学校で子ども達に対し、パソコンの正しい使い方を指導して欲しい。

(委員) 刃物もパソコンも道具であり、何もパソコンが悪いのではない。その道具の正しい使い方を誰が教えるかである。親のほとんどは教えるだけの能力がないのではないか。いけないことはさせないように指導できる体制が欲しい。

(委員) 最近の親が子どもに勉強をさせる、つまり力をつけさせるのは何も子どもの将来を考えてのことではなく、自分のペットまたはアクセサリーとしてよい子になってほしいから勉強させているにすぎないのではないか。

問題は子ども達が1歳から3歳までの間にモラルを教えなければならないが、だれが教えるかが問題であり解決しなければならない

(事務局) 夏休みに入るにあたり、センターだよりなどで夏休みの正しい過ごし方などについて指導していきたい。

4. 報告事項

<事務局説明> 最近における子どもを取り巻く危険情報の実態について説明

5 その他 次回の第2回のセンター運営委員会は12月頃を予定すると事務局から説明し、了解された。

6. 閉会